

科目名	権利擁護と成年後見制度（社会福祉士必修）				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2022年度 後期	単位数	2		
担当教員	菊地 恵子				
内容および計画	<p>授業のねらい</p> <p>①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。</p> <p>③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。</p> <p>④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。</p> <p>地域の中には、本来誰もが平等に持っている権利を、自ら主張し、守り、適切に行使することができない人々が多数存在します。そうした人々の権利擁護を支える法とその仕組み、権利擁護の意義について学び、ソーシャルワーカーが行う権利擁護とはなにか、どうあるべきかを考えます。</p>				
1	権利擁護に必要な方制度				
2	憲法				
3	民法・行政法				
4	法の基礎				
5	権利擁護の意義・福祉サービスの適切な利用・苦情解決の仕組み				
6	虐待・暴力関係法の概要				
7	障がい者差別会報方の概要				
8	意思決定支援				
9	インフォームドコンセント				
10	秘密・プライバシー・個人情報・権利擁護活動と社会の安全				
11	権利擁護にかかわる組織、団体、専門職				
12	成年後見制度の概要・後見の概要				
13	保佐の概要・補助の概要・任意後見の概要				
14	成年後見制度の最近の動向・成年後見制度利用支援事業				
15	日常生活自立支援事業				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	『権利擁護を支える法制度』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規	9784805882399	2021
現代の社会で、高齢者や障がいの権利が侵害されている深刻な現実があります。社会福祉実践において、権利擁護は基本的な課題です。権利擁護の根拠となる各種法律や成年後見制度はじめ権利擁護の制度への理解を深め、ソーシャルワーカーのあり方や使命について考えます。					
参考書	授業の中で示します				
成績評価					
	評価方法				割合(%)
	出席と授業への参加				20
	期末テスト				80

学習到達目標	①法の基礎的な仕組みと憲法、民法、行政法と権利擁護の関係について説明できる。②権利擁護の意義と支える仕組み、関係機関の役割について説明できる。 ③権利擁護活動の実際についてイメージすることができる。④意思決定支援について説明できる。⑤権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から説明できる。⑥ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度や関係機関について説明できる。
先修条件	
実務経験	実務経験あり：病院 MSW、在宅介護支援センターSW、居宅介護支援事業所ケアマネジャー、地域包括支援センター社会福祉士等、ソーシャルワーカーとして約 40 年勤務。2006 年から成年後見人として活動、現在まで 18 名の成年後見人、保佐人を務める。また、2015 年から 2020 年まで福島県社会福祉士会の権利擁護委員長としてばあとなあ福島の運営に携わる。
その他	